

諸生と月を見る（中江藤樹）

清風座に満ちて炎暑を忘る

明月天に当って世塵を絶つ

同志偶然興に乗ずる処

知らず識らず帝堯の民

清風満座忘炎暑
明月當天絶世塵
同志偶然乘興處
不知不識帝堯民

解説 夏、門人たちと月見をし、その時たまたまできた詩。

語釈 ※清風Ⅱすがすがしい風。 ※炎暑Ⅱ真夏の焼けるような暑さ。

※明月Ⅱ明るく澄んだ月。 ※世塵Ⅱこの世の中の汚れた塵。

※同志Ⅱ同じ志をもつ人の意であるが、ここは門人を親しんでこのように呼んだ。 ※帝堯Ⅱ帝堯は中国太古の伝説上の聖王。

※民Ⅱ帝堯時代の民を言う。

通釈 すがすがしい風が座席に吹きわたり、昼の焼ける様な暑さも忘れさせてくれる。明るく澄んだ月が中天に輝いて、俗世間の塵や汚れをすっかり絶ちきって清らかである。志を同じくしている者たちが、思いがけずに打ち興じて月見をしていると、知らず知らず、古代の聖王帝堯時代の民のように素朴で清らかな心になるのである。